

スコール・マスターズ通信

第32号
平成21年5月27日

宿泊研修のご案内：初夏の箱根で心身ともにリフレッシュ！ 日常を離れ、自己を見つめる2日間にご参加下さい



昨年：リラクゼーション禅

今年も右記要綱のとおりスコール・マスターズ宿泊研修を開催します。家族旅行や会社の旅行・研修とは違う、他に類のない時間を体験できます。

参加の皆さんに自己開発のきっかけをつかんでいただくため、スコール家庭教育振興協会が永年をかけて開発・改善を重ねた研修です。心身開発のための発声練習・座禅に、自己開発のための座談・ワークショップを組み込んだもので、次のような内容です。

1日目 ① オリエンテーション：研修日程、内容案内 ② マスターズ総会：マスターズの活動結果と活動予定の報告・議決 ③ 研修Ⅰ[心身開発トレーニング]：ボイストレーニング・リラクゼーション禅 ④ 部屋別研修：自己紹介他 ⑤ 入浴等自由時間 ⑥ 懇親会

2日目 ① 早朝研修：参加者演壇・会長講話 ② 広間座談 ③ 朝食 ④ 研修Ⅱ[ワークショップ]：自己開発ワークショップ 自己分析のために諸種のワークを行います。

開催要綱

- ★ 日時：平成21年6月13日(土)～14日(日)[1泊2日]
(集合：13日(土)13時 解散：14日(日)11時)
- ★ 参加対象：スコール・マスターズ会員
- ★ 参加費：下記のとおり(当日受付にて支払可)
 - ・首都圏在住者 一律 15,000円
 - ・首都圏在住者以外 一律 10,000円
 (交通費 5,000円補助分相殺)
- ★ 申込先：スコール協会本部 TEL 042-728-7951
- ★ 研修会場：箱根湯本ホテル別館
神奈川県箱根町湯本茶屋184
TEL 0460-85-8800
- ★ 持ち物：洗面道具/着替/トレーニングウェア
(軽装でも可)/筆記用具/その他必要と思われる物

申し込みは今からでもギリギリ間に合います。
上記、協会本部の電話番号にご連絡ください。

♪♪♪ 投稿コーナー ① ♪♪♪

長男が小学校に入学し、地域のサッカークラブに入部しました。始めた頃はサッカーのルールなどはおかまいなく、味方チームも相手チームの子もみんな目をキラキラ輝かせ、ただ一心にボールに触ることを心から楽しんでいました。

長男は3年生になってゴールキーパーを希望しました。作文で「ゴールキーパーはボールが飛んでくると怖い、でも、ドイツナショナルチームのオリバー・カーン選手のようにどんなボールが来ても素早く動ける選手になりたい」と決意を書き、ゴールキーパー筋につとめました。中学に入ってもキーパー、そして3年になると部長キャプテンとして部員50名を引連れ念願の県大会出場を果たしました。そんな長男の姿勢から改めて大事なことを教えてもらったように思います。

それは「チームのキーパーは自分しかない、という自覚と責任感を持って継続して取り組み、正に

子供達の姿勢から学んだこと

青葉・都築ブロック 霜田千代松



‘継続は力なり’を成し遂げたこと」です。3歳違いの次男も同じサッカークラブに入り兄を目標に取り組みゴールキーパーを始め様々なポジションをこなして6年間サッカーを楽しんだようです。

私達夫婦も、長男、次男を合わせ9年間、二人の子供達のサッカー部活動に、練習、遠征試合、合宿と

土日休日を返上して携わりましたが、特に妻の力添えには大いに感謝しています。

子供達と一緒にサッカーを楽しみ、リフレッシュした気持ちで翌日から仕事に就くことができました。この春、長男の同級生達の高校進学を祝い、同窓会を開き、たくましく成長した子供達の姿を見ることができ嬉しくなりました。そして次男の小学卒業と同時に私達夫婦もサッカークラブを卒業です。卒業生メンバー11人一人ひとりから顔写真とメッセージ入りの寄せ書きをもらい感動を新たにしました。これからの彼らの成長が楽しみです。二人の9年間のサッカーを通して、地域の人達との交流を持つことができ、そんな経験をさせてもらった親として子供達に心から感謝です。

連載

父親の役割 ⑥ (最終回)

岐阜ブロック 小寺房征

IX お父さんの10か条

① 朝起きたら挨拶を交わそう

《社会生活の基本は礼儀であり、それは挨拶から始まる》

家庭の中で父親が率先して挨拶をしましょう。子供に「挨拶はどうした」と言う前に父親から妻に子供に、明るい挨拶を繰り返して習慣にしましょう。気持ちのいい朝のスタートにするために。

② パートナーの良いところを誉めよう

《母親を評価する愛情が、我が子の教育の土台となる》

パートナーをまず誉めることのない日本人男性。言葉で相手を誉めることが苦手だといわれていますが、誉められてうれしくない人はいません。「今日の料理はおいしいね」「髪型変えたの似合っているよ」とか、夫婦の仲がよければ子供もうれしいはずですよ。

③ 子供の言葉を大切にしよう

《それによって子供の心が見え、対話が成立する》

子供たちは自分の身の回りに起こったことを両親に話したいのです。同じように喜んだり悲しんだりして欲しいのです。それも今なんです。「後で」ではないんです。子供たちは「後で」と言うと話しかけても無駄だとあきらめてしまいます。

④ 子供の長所を把握しよう

《それによって愛が伝わり、やる気が引き出される》

短所はいくらでもありますが、見方を変えれば短所も長所になります。「動作が鈍い、反対に何事も慎重だ」「集中力がない、反対は好奇心が強い」というふうに、誉められればそれが自信になり、やる気が起きてきます。

⑤ 叱り方を工夫しよう

《親の感情でなく、反省し発奮させる叱りかた》

頭ごなしや子供の人格を否定するような叱り方ではなく、子供にやる気を起こさせる言い方が大切です。子供自身が軌道修正できれば展望は開けるものです。

⑥ 自分のこだわりを話そう

《子供は親の建前は聞かない、子供に通じる本音を》
父親の語る言葉はとて大きく彼らの成長を左右します。何気なく話した一言が、一生を左右する事だってあります。自分の考えや理想や夢などを大いに語りましょう。

⑦ 子供に仕事の意義をはなそう

《自分の仕事の社会的な意義を語ることは、自分のためでもある》

父親が自分の仕事に誇りを持とう。自分の仕事が社会全体の中でどのような役目を果たしているか、どんな人のために役立っているのかその意義を話して聞かせましょう。

⑧ 家族で食事をたのしもう

《食事は子供との大事なコミュニケーションの場》

家族が家族であるために本当に必要なのは家族団らん、つまり食事ではないでしょうか。

孤食といわれて久しいが、何気ないおしゃべりの出来る時間、ほっとできる時間が家族の絆を深めます。

⑨ パートナーの相談には応じよう

《子供の教育は父母の共同作業である》

子育ては母親だけではありません。今まで述べてきたように父親も重要な位置にあります。「そんなこと一々相談するな」と思う事もあるかもしれませんが、母親の子供に関する相談には応じるようにしましょう。

夫婦で子供の話題を共有することは、子供に敏感に伝わります。母親がいらいらして、父親の愚痴をいったりすれば、子供の不安定さに直結します。



⑩ 子供と共に社会体験を心がけよう

《人生の豊かさは仕事、家庭、社会参加のバランスから生まれる》

学校が土曜日にも休みになって家にいる時間が長くなりました。自治会もいろいろな企画を立てて、子供たちの参加を呼びかけるようになりました。子供たちと接することでエネルギーを貰ったり、ほかのお父さんたちとおしゃべりすることで、会社の中にだけいたのでは得られないことに気づき、仕事にプラスになることも多いと思います。

(次頁へつづく)

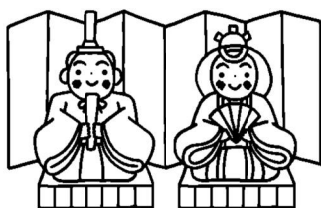
人生学講座



* 世代で受け継ぐ伝統行事

最後に、家族全体の行事として季節の行事を是非取り上げておきたいと思います。

誕生日やクリスマスなどは年々派手になってきますが、昔ながらの季節の変わり目の行事、お正月、節分、ひな祭り、などを受け継ぎ、家庭ごとの新しい伝統を作り出していくことも父親の役割です。



父親と共に過ごす時間を思い出のひとつとして、作り上げておきたいものです。

X 結び

今まで述べてきましたように、家庭は、政治、経済、社会、教育、文化、の根です。そのゆえんは、生活するためには働かなくてはなりません。稼いだお金を、貯金に回したり、事業の資本に当てる、生活費を払う、必要なものを買う、これらが経済活動です。

家の手伝いをさせる、地域の清掃活動に参加する、ボランティアに参加する、これらが社会活動です。映画を見る、美術館に行く、劇場に行く、図書館に行く、これらが文化活動です。

子供たちに、ルールやマナーを教える、これが教育です。このように社会生活の基本は家庭です。家庭の再生がスコレの説く道です。

今までに、何度となく申し上げていますが、現在は、父親が背中を見せていれば子供は育つという時代ではなくなりました。毎日のように隠し事が次から次へと新聞紙上をにぎわしています。

北海道の白い恋人、ミートホープ、不二家、吉兆、日本の老舗伊勢の名物赤福までもが、製造日をごまかして冷凍保存販売するなどと、創業者の血のにじむような苦労や、創業者の熱い思いは何処へ行ってしまったのでしょうか。

また政治の世界でもいろいろと隠し、自分の地位にしがみついている、モラルがまったくなくなってきています。このような父親がいる限り、子供たちの不満や悩みを感じ取れない父親がいる限り、子供たちの犯罪も、自殺も、いじめも、不登校もなくならないでしょう。

今父親に求められているのは、私達、父親の生き様であろうと思います。厳しい現実と戦うものほど自らの内に激しい理想精神が必要になります。父親が夢と感動を持って生きる、その生き様が今求められています。子供たちの心に、栄養を与え、夢と感動を持って生きる、その生き方が求められているのではないのでしょうか。(完)

♪♪♪ 投稿コーナー ② ♪♪♪

マスターズでの学びが仕事上でも大きな宝に
長野ブロック 渡辺 旬



マスターズの研修会に参加して半年が過ぎました。「人生学講座」で月に1回の参加ですが、私にとって毎回かけがえの無い大切な時間を刻んでいます。

講師陣の皆様が実際の体験と学びを基に話をしてくるので、自分と同じ失敗をした内容の時は思わず笑ってしまったりしますが、とても分かりやすく、自分には考えられない視点からの問題解決等、とても勉強になります。

人との付き合い、仕事上の問題、夫婦親子の問題、病気等、生きていくうえで避けて通れない問題に対処するにあたり、その判断のベースに置くものがいかに大切であるか毎回気づかされます。

私はプラスチック金型の設計（自営業）を社員1名と2人で営んでいます。最近起きたことです

が、製造業なので厳しい受注環境の中、社員が単純ミスをしてしまい、作った金型が使い物にならず、最初から設計をし直し、金型を作り直し、掛かった費用の半額を弁償しなければならない事態が起きてしまいました。幸い納期に余裕があったので、最終ユーザーに迷惑をかけることはありませんでしたが、そのことを苦にした社員が体調を崩し、医者から鬱状態と診断され、長く休むことになってしまいました。

この状況の中で私は社員の健康と収入の維持を守ること、客先の信用を維持することを最優先に考えて手を打ち、危機を乗り越えることができました。社員は健康を取り戻し、客先からは単価のよい仕事を最優先で継続して出してもらえようになり、客先の信用を維持することができました。

この体験をしたことで、マスターズでの学びがいかに大きな宝になっているか改めて実感させていただくことができました。

相変わらず厳しい受注環境ですが、この厳しい環境だからこそ、夢を持って新しいことに挑戦し続ける父親の姿を子供の記憶に残せるよう、これからもマスターズでスコレの学びを深めてまいります。

会員動向

平成20年度末現在、会員数は400名の大台に到達しました。例えば2002年10月に会員数60名で、マスターズがスタートしましたが、丸6年かけて到達した会員規模となります。

地域的には「北関東地区」が90名、「京浜地区」83名「八王子多摩地区」が79名と多く、この三地区で全会員の63%を占めます。その意味では首都圏に集中しますが、今後はこの勢いをより全国へ広げるためにも、地方で活動できる研修システムの構築や、自主学習のための教材提供など、体制づくりを推進する必要があります。

そして、出来ることなら、スコール創立30周年を迎える2010年秋には、会員数500名を達成したいものです。

Web Masterより



マスターズ会員数も400名の
大台となり、メールニュースの登録数(アカウント数)は156になりました(09年5月)。

家族やご自身の近況など、返信して下さる会員の皆様、毎月の「メールニュース」を楽しみにしている会員の方が多くいらっしゃいます。ありがとうございます。

メールニュース未登録の方、是非この機会に登録をお願いします!!

また、メールアドレスを変更されましたら、是非、ご一報願います。

★メールニュース会員の登録は簡単★

お名前、地区名を記載の上、下記アドレスへメールしてください。(PCメールにのみ対応)。

送信先: webmaster@schole-masters.org

当面の行事予定

- 5月下旬 冊子「危機管理・対応事例集」
第3集発行予定(危機管理研究会)
- 6月13~14日(土/日) マスターズ年次総会&研修
(箱根湯本ホテル)
- 7月5日(日)、8月2日(日)、9月6日(日)
「心身開発研修」(スコール会館・研修室)
- 7月18日(土)「首都圏生きがい講座(人生学研修)」
(スコール会館・研修室)
- 7月下旬マスターズ通信第33号発行予定
(広報委員会)
- 8月23日(日)、9月13日(日)
「人生学研修」(スコール会館・研修室)
- 9月21~23日(月~水) 第12回「滝行」
(木曽御岳山・新滝)

青	朱	白	玄
春	夏	秋	冬

今年のゴールデンウィークは、サラリーマンにとってカレンダーの並びなどにより比較的長期間の休暇が取れた方も多かったのではないかと。リフレッシュした人、疲れた人、休まざるを得なかった人、それぞれの過ごし方があったかと思われる。一方で、休みどころではないという現実もある。100年に一度という表現が使われ始めた頃からみると少しは好転しているのではないかと見る向きもあるが、まだ長いトンネルの中にいることには違いない。

今年は秋にも大型連休がある。春のゴールデンウィークに対し、その週の名称を敬老の日にかけてシルバーウィークと名づけようかなどとなにかと話題も多い。二昔前、祝日が日曜日と重なる時は欧米と同じように次の日の月曜日を振替休日という意見を持っていた人が、このことが定着化してくると休み過ぎ、休むことの意義がない、さらにはゆとりということが悪いような言い方までしている。以前の主張は一体何だったのであろうかという気持ちは否めないが、その時のおかれた状況等によって、意味、意義、言い方などの尺度が変わることは仕方のないことであると自分に思いつませている。

言葉でも時代によって使い方、意味が全く違うこともままあるが、皆さんは「君子豹変す」「犬も歩けば棒に当たる」「こだわる」など良い意味で使われますか、悪い意味で使われますか。

(梶田 健二)

編集後記

仕事を終え、やや緊張感を引きずりながら家に近づくと、中からドタドタと玄関に向かい走る音。すると、私が開けるより先にドアが開き、「お帰りなさい!」という元気な笑顔の息子。後ろから「お疲れ様でした」と妻(の演出)。一気に心が和みます。なぜ帰ってきたのがわかるのか不思議に思っていると、「車の音でわかる」と妻が教えてくれました。

それで思い出したのが私の父。その昔、父が乗っていた空冷のワーゲンビートルはエンジン音が大きく、遙か彼方から父の帰りを知らせてくれました。何でも無い音のようですが、それは父親の帰宅を告げる音。こんな音にも父親の存在感が表れたりするなあ…と思っていたところに、宿泊研修の案内が届きました。申込書を書きながら、マスターズという学びの場に感謝です。(白石 英樹)

編集: 社団法人 スコール家庭教育振興協会
スコール・マスターズ 広報委員会

発行人: 小俣富雄
〒194-0013 東京都町田市原町田4-7-12
TEL: 042-707-4500
http://www.schole-masters.org